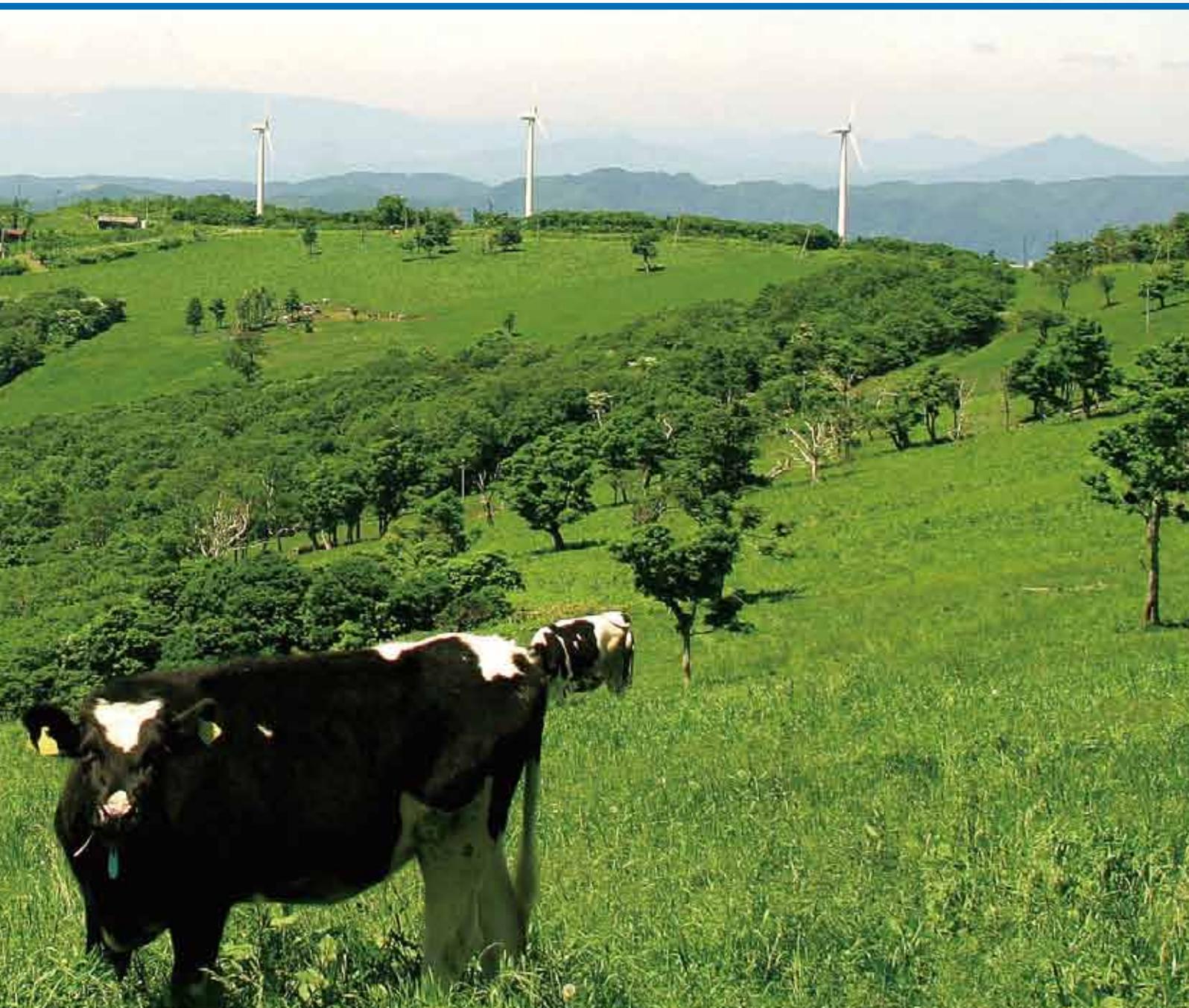


平成23年度

過疎地域自立活性化 優良事例表彰



総務省・全国過疎地域自立促進連盟

平成23年度

過疎地域自立活性化優良事例表彰 表彰受賞団体



全国過疎地域
自立促進連盟会長賞

北海道厚沢部町
素敵な過疎づくり 株式会社



総務大臣賞

島根県飯南町
谷自治振興会



総務大臣賞

岩手県
葛巻町



全国過疎地域
自立促進連盟会長賞

島根県益田市
株式会社 萩の会



総務大臣賞

愛媛県上島町
株式会社 しまの会社



全国過疎地域
自立促進連盟会長賞

宮崎県日之影町
戸川地区石垣の村管理組合

表彰受賞団体一覧

総務大臣賞(3団体)

岩手県
葛巻町

北緯40度ミルクとワインと
クリーンエネルギーの町 くずまき

島根県飯南町
谷自治振興会

谷自治振興会地域計画
～四季折々の溪谷に神楽舞う里～

愛媛県上島町
株式会社
しまの会社

島民の、島民による、島民のための会社

全国過疎地域自立促進連盟会長賞(3団体)

北海道厚沢部町
素敵な過疎づくり
株式会社

「世界一素敵な過疎の町」を目指して
～「ちょっと暮らし」を活用したまちづくり～

島根県益田市
株式会社
萩の会

「恵まれた匹見の大自然の中で
誰もが生涯現役で心豊かに暮らせる
集落をめざして」

宮崎県日之影町
戸川地区石垣の村
管理組合

先人の想いが伝わる 石垣の村『戸川』
～長い歴史の中で営まれた、
人のぬくもりがここにある～



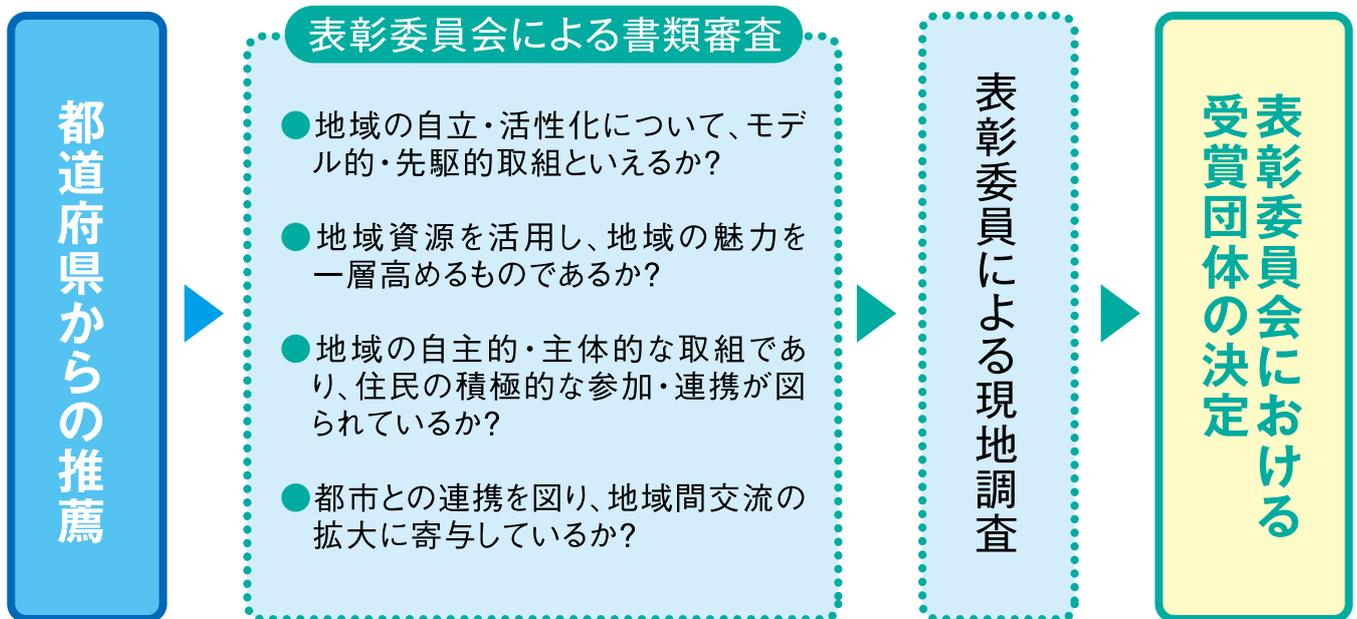
過疎地域自立活性化 優良事例表彰制度の概要

今日、多くの過疎地域においては、高齢化の進行、人口の流出のため、地域産業が停滞し、生活基盤の格差が残されている等、依然厳しい状況にある。しかし、21世紀を迎え、地域間交流の拡大、情報通信の発達、価値観の多様化等、過疎地域を取り巻く環境、時代潮流は大きく変化している。

こうした中、昨年4月より過疎地域自立促進特別措置法が拡充延長され、施行されたところである。

今後、過疎地域は、豊かな自然環境に恵まれた21世紀にふさわしい生活空間としての役割とともに、地域産業と地域文化の振興等による個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、過疎地域の住民福祉等のためだけでなく、我が国が全体として多様性と変化に富んだ、美しく風格ある国土を形成することに寄与することを期待されている。

このため、地域の自立と風格の醸成を目指し、過疎地域においてこれらの課題に取り組み、創意工夫により活性化が図られている優良事例について表彰を行い、過疎地域の自立促進に資するものとする。



日時：平成23年10月13日(木) 14時05分
場所：宇和文化会館(全国過疎問題シンポジウム全体会会場)
愛媛県西予市宇和町卯之町3丁目444番地

平成23年度表彰委員会委員(敬称略)



委員長 宮口 侘也

早稲田大学教育・
総合科学学術院教授



委員 関司 直也

法政大学現代福祉学部
福祉コミュニティ学科准教授



委員 玉沖 仁美

(株)タマノフ 代表取締役



委員 堂垣 彰久

NHK大型企画開発センター
チーフ・プロデューサー



委員 政所 利子

(株)玄 代表取締役

委員長講評

宮口侘也

平成2年に過疎地域の活性化のお手本になるような活動に対して表彰が始まり、22年目になります。この間多くの団体が表彰され、その後も地域の活性化に実をあげていただいていることは大変に喜ばしいことだと思います。今年度も、委員各位の現地視察と委員会での討議を経て、総務大臣賞3団体、過疎連盟会長賞3団体を選ばせていただきました。

総務大臣賞に輝いた岩手県葛巻町は、草地開発事業で生まれた牧場での公社の地道な事業開発の積み重ねで、今や東北一の酪農の町になりました。さらに特産の山ぶどうを活用したワインの生産、風力発電を始めとするクリーンエネルギーの活用で全国に先んじています。まさに「町にあるもの」を最大限に活かす工夫が実っているすばらしい事例です。

島根県飯南町の「谷自治振興会」は、旧小学校区で早くから過疎対策委員会を組織、その後閉校舎を改修した谷笑学校を交流拠点として活動してきました。バス撤退後は独自の輸送活動を展開し、除雪作業の受託などの生活サポートに加えて、神楽の競演会の実施で盛り上がっています。50・60代の人が多いことは過去の活動の輝かしい成果です。

愛媛県上島町の「(株)しまの会社」は、大都市圏から1ターンした男性が住民と共に設立した会社で、摘み菜(野草)料理を提供する「しまで Café」を活動と交流の拠点とし、新しい学びの場「しまの大学」の運営、墓掃除や荷物運び、耕作放棄地の活用など、多彩な活動を展開しています。地域資源を活かす住民との協働が活動を確固たるものにしていきます。

連盟会長賞に輝いたのは、まず北海道厚沢部町の条例から生まれた「素敵な過疎づくり(株)」です。町民も費

用負担した「ちょっと暮らし住宅」4棟に、1年間で69名が訪れました。町民との交流が豊富な滞在プログラムにも多くの子供たちや女子大生が訪れ、過疎を悲観するのではなく「楽しい」時間を積極的につくっているところが評価されました。

島根県益田市の「(株)萩の会」は、戸数19戸の萩原集落がつくった会社です。男の料理教室に始まり、空き家を民宿にして郷土料理を提供し、ブルーベリー栽培など息の長い交流活動を続けてきました。全員参加の法人に組織替えしてからは、「萩の舎」というもてなしの館をオープン、田舎暮らし体験に向けて本格的な取り組みが進みつつあります。

宮崎県日之影町の「戸川地区石垣の村管理組合」は、わずか7戸の集落で、急峻な谷の斜面の棚田を守ってきました。背後には高さ日本一といわれる石垣棚田があります。町が整備した「石垣茶屋」で棚田まつりをおこない、町が森林セラピー基地に認定されてから、石垣の保全に企業が参加するなど、新たな展開が生まれていることが評価されました。

近年、表彰団体はますます多様化しているのですが、今年は株式会社が3つもあり、それぞれ、町が、小さな集落が、さらには1ターン者がつくった会社と多様です。一方で、町が直接に近い形で事業展開してきた葛巻町、旧小学校区の谷自治振興会、小さな集落の戸川地区と、ここでも違った大きさの地域が単位となっています。過疎地域の活性化は画一的にできるものではありません。いろんな大きさの活動が生まれ、持続していくことこそ大切です。このような多様な団体を表彰できたことを心から喜びたいと思います。



北緯40度 ミルクとワインと クリーンエネルギーの町 くずまき



標高1,100m袖山高原で稼働する3基の風力発電機。風車の足下では、ホルスタインがのんびりと草をはむ。

事例の概要

- 葛巻町は、乳牛飼養頭数が東北では1番多く、酪農業が基幹産業である。また、自生の山ぶどうを活用した特産品（山ぶどうワインやジュース）開発を行い、県内はもとより、首都圏等でも多くの顧客を獲得している。町内の第3セクターを中心に乳製品の加工販売や山ぶどうワインの製造販売など、いち早く6次産業化に向けた取組により、産業振興による経済活性化及び雇用創出の実績をあげている。
- 地域資源を活用した新エネルギー導入によるエネルギー自給を図るため、風力発電、太陽光発電、バイオマスなどの新エネルギーの導入を推進してきた。現在約13,000世帯分（町世帯数2,908世帯）の発電量を誇り、温暖化対策の先進事例となっている。また、町民への新エネルギー導入補助や、小学校での省エネ活動、環境学習など、住民の関心も高くエネルギー問題への取組が進んでいる。



畜ふんバイオマスシステムを見学する新エネルギー関連の視察者。新エネルギー先進地として、国内外から視察や取材が絶えない。

評価のポイント

北緯40度、岩手県の東北部に位置する葛巻町では、冷涼な気候を活かし、明治25年から酪農に取り組んできた。現在では約1万頭の乳牛を飼育し、東北一の酪農の町となっている。また、昭和61年より特産品の山ぶどうを活用し、ワインの生産を行っており、国産ワインコンクールで様々な賞を受賞している。

平成11年度には「葛巻町新エネルギービジョン」を策定し、風力発電をはじめ、牛糞を利用したバイオマス、間伐材等を利用した木質バイオマス、太陽光発電、地熱利用など多岐にわたるクリーンエネルギーを活用するようになり、現在では自給できるだけの発電量を誇っている。クリーンエネルギーへの注目が高まっている中、その先進地として、全国から多くの視察が訪れている。

冬は氷点下15度以下まで気温が下がり、平地も少なく、決して恵まれているとは言えない環境の中で、「今、町にあるもの」を最大限に生かす工夫から、これらの特徴的な取組が生まれている。町の持つ資源を長年の地道な努力によりブランド化することに成功した本事例は、全国の過疎地域の参考になる要素を多々持っている。本事例においては、このような点が評価された。



葛巻小学校での新エネルギー・省エネルギー学習会。小学生の「自然な行動」が大人の意識を変えていく



特産の山ぶどうをふんだんに使用したくずまきワイン。フルーティーでキレのある飲み口で、県外でも確実に顧客を獲得している。



冬期間2週間にわたり、「生命、食、仲間」の大切さを学ぶ「くずまき高原牧場スノーワンダーランド」。県外はもとより国外からの参加者もある。

岩手県 葛巻町(くずまきまち)

【団体名】 葛巻町

【所在地】 〒028-5495 岩手県岩手郡葛巻町葛巻第16地割1番地1

【連絡先】 TEL:0195-66-2111(代表) FAX:0195-66-2101

E-mail : kuzumaki@town.kuzumaki.iwate.jp

URL : <http://www.town.kuzumaki.iwate.jp/>

【交通のご案内】

自動車 ●東北自動車道滝沢ICから国道4号、国道281号経由60分

鉄道 ●東北新幹線いわて沼宮内駅からバス40分

飛行機 ●いわて花巻空港から自動車で120分



岩手県
葛巻町

国勢調査人口(単位:人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
15,964	14,135	9,536	8,725	8,021

人口増減率(単位:%)

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-49.8	-43.3	-8.5	-8.1

高齢者・若年者比率(H17年)(単位:%)

高齢者比率	35.2	若年者比率	9.8
-------	------	-------	-----



谷自治振興会地域計画 ～四季折々の溪谷に神楽舞う里～



伝統文化の保存と地域活性化を目的に、毎年「神楽共演大会」を実施している。7回目となる今回も満員御礼となり、約500人の観客で埋め尽された。

事例の概要

- 飯南町谷地区の92戸全世帯が構成員である本会は、前身となる過疎対策委員会を昭和40年代後半から立ち上げ、地区住民全員での地域づくりを実践してきた。
- 平成21年度より町営バス廃止に伴い交通空白地帯が生じていたが、本会が輸送支援活動を行い病院や買い物などの高齢者の移動手段として解消を図り、着実に利用実績を伸ばし地域交通として重要な役割を果たしている。
また、廃校になった旧谷小学校を改修、「谷笑楽校」と命名し、交流拠点として地域の伝統芸能である石見神楽を中心に、各種交流活動を実施している。また、公民館と連携した各種イベントを行うなど地域活性化に取り組んでいる。
さらに、豪雪地帯の生活支援策として除雪組織(スノーレンジャー)を結成し、高齢者を対象に実費程度を負担してもらい、除雪作業を行っている。自分の力だけでは除雪できない方たちの不安を解消し、生活を支える取組として喜ばれている。



自治会輸送活動支援事業を導入し、医療機関や買い物への輸送支援を行い、谷地区高齢者にとっての重要な交通機関としての役割を果たしている。

評価のポイント

谷地区は、飯南町の南西部に位置し、美郷町(旧大和村)に隣接している。昭和28年に赤名町と合併するまでは、邑智郡に属しており、石見文化圏の流れを汲む地域であり、神楽も石見神楽の系統である。

昭和40年代の地区の過疎化に対し、地区で過疎対策委員会を設立し、テレビ共聴アンテナや有線電話、地区内県道の整備や水道といった生活環境の改善に積極的に取り組んできた。水稲や木炭・養蚕・和牛飼育が主な産業であったが、農地の少ない地域であり、高度経済成長期には徐々に人口減少が続いていった。

しかし、人口流出を悲観せず、地元に残って地域に前向きに住み続ける人たちが地域を支えていた。そうした地区としてのまとまりを背景に、他出した人も次第に町内に勤め先を求めて戻ってくるようになったという。現在の人口構成にその成果が表れており、世代ごとのバランスが取れている。

谷自治振興会は、こういった地区のつながりを背景に、「笑いあふれる楽しい交流の拠点づくり」としての谷笑楽校、会が主体となって行う輸送活動、庭先や進入路の除雪を行うスノーレンジャーといった特徴的な取組により、さらなる地域の活性化、安心して暮らせる地域づくりを行っている。本事例においては、このような点が評価された。



廃校になった旧谷小学校を改修し、「谷笑楽校(たにしょうがっこう)」と命名。交流イベントなどの各種事業の拠点施設として活用している。



「谷笑楽校」では、公民館や各種団体との連携により育児サロンや通学合宿など、各種イベントを定期的に行っている。



高齢者の生活支援として除雪サービスを実施。冬期の除雪作業の問題が解消され、高齢者も安心して生活を送ることができている。

島根県 飯南町(いinanちょう)

【団体名】谷自治振興会

【所在地】〒690-3514 島根県飯石郡飯南町井戸谷478-1

【連絡先】TEL : 0854-76-3629

URL : <http://iinantani.main.jp/>

【交通のご案内】

自動車 ●中国自動車道三次IC国道54号、県道55号経由45分

鉄道 ●JR出雲市駅からバスで赤名駅まで1時間30分 赤名駅からバスで10分

飛行機 ●出雲縁結び空港から自動車で1時間40分



国勢調査人口(単位:人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
13,010	9,163	6,893	6,541	5,979

人口増減率(単位:%)

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-54.0	-34.7	-5.1	-8.6

高齢者・若年者比率(H17年)(単位:%)

高齢者比率	38.2	若年者比率	10.6
-------	------	-------	------



「島民の、島民による、 島民のための会社」



株式会社しまの会社は、「島民の、島民による、島民のための会社」。島民70名の出資により2008年10月設立。地域住民主体の地域運営を目指す。

事例の概要

- 「株式会社しまの会社」は、地域の運営を行政や他の誰かに任せるのではなく、地域の主役である住民自身の手によって地域の資源を活かしながら行っていくための会社として、地域住民の出資により2008年に設立された。
- 活動内容として、島の特産物を活かした料理を提供する「しまで Café」をオープンし、まちづくりの情報発信の場として運営しており、四季の摘み菜をふんだんに使った料理や地元の野菜と海産物等を活用した地産地消の料理を提供するなど、地域資源の活用に取り組んでいる。また、耕作放棄地を活用するためのプロジェクトも立ち上げ、プロジェクト応援メンバーを全国から募集して活動しているほか、しまの会社を中心となって「しまの大学」プロジェクトを立ち上げ、地域の中だけでは解決できない課題を地域外の個人や企業とコラボレーションしながら解決するモデルづくりにも取り組んでいる。



弓削島では、野山や海の食べられる自生植物を調査し、採集して季節の料理やお茶にする「摘み菜」が盛んで、地元の小中学校の教育にも取り入れられたり書籍を発刊したりしている。しまの会社やしまの大学では、摘み菜学部、摘み菜アカデミーなどの活動を通じて、摘み菜体験プログラムや摘み菜人材の育成、商品化などに取り組む。写真は、「摘み菜模様～小皿料理22品」(しまで Café。要予約。)

評価のポイント

地域の交流・情報発信の拠点としての「しまで Café」を開設し、摘み菜やレモンポーク、地元のお土産物など地の食材を活かした運営を行うとともに、地域の特性を活かした特産品の開発や耕作放棄地の再生への取り組み、都市住民との交流を生む体験プログラムの実施、住民からの声をもとに様々な地域課題の解決を図る「しまの大学」プロジェクトなど、過疎地域しかも島ということで大きな産業の育成が困難な中で、地域資源を存分に活用しながら多種多様な地域ビジネスとプロジェクトを育て上げ、雇用を創出してきている。

特に、島の外からやってきた人材と島の価値を熟知する地元の人材が会うことによって、外からの新しい感覚・アイデアと地域の発想・人材・資源との橋渡しが円滑に行われるなど、人材交流の相乗効果によって事業を実現してきていることは、過疎地域における新たな絆づくりという観点からも評価できる。

また、「しまの大学」においては、住民の抱く地域課題の解決への道筋を見いだすために外部講師等から実感を持って学べる場を提供しているなど、多様な主体との協働による過疎地域の自立活性化を目指すものとなっており、地域外とのコラボレーションにより地域課題を解決していくためのモデルとなる取り組みといえる。本事例においては、このような点が評価された。



しまの大学では、2010年12月に、地域課題解決アイデアコンテストを実施。一次審査を勝ち抜いた7組が島民の前でプレゼンテーション。島民の投票により実際に取り組む優秀アイデアを選んだ。



耕作放棄地再生プロジェクト「再生畑には夢がある」。都市住民や飲食店などからオーナーを募ったり、尾道の帆布メーカーと連携して、綿花の有機栽培を行うなど耕作放棄地を活用した様々な取組を実施。



弓削島にある国立弓削商船高等専門学校と地域の協働による地域課題解決プロジェクト「しま LABO」。学校の知財・人材を地域課題解決に活かすモデルづくり。

愛媛県 上島町(かみじまちょう)

【団体名】株式会社 しまの会社
 【所在地】〒794-2506 愛媛県上島町弓削下弓削830番地1
 【連絡先】TEL/FAX:0897-77-2232 E-mail:info@kibounoshima.jp
 URL :http://www.kibounoshima.jp/kaisha/

【交通のご案内】

- 自動車** ●尾道ICから因島経由(フェリー)で約1時間
今治ICから因島経由(フェリー)で約1時間30分
- 鉄道** ●JR福山駅から高速バスにて因島経由(快速船)で約1時間20分
JR今治駅からバスにて今治港経由(快速船)で約1時間10分
- 飛行機** ●広島空港からバスを乗り継ぎ因島経由(快速船)で約2時間
松山空港からバス・鉄道にて今治港経由(快速船)で約2時間



国勢調査人口(単位:人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
14,761	13,572	9,380	8,605	8,098

人口増減率(単位:%)

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-45.1	-40.3	-8.3	-5.9

高齢者・若年者比率(H17年)(単位:%)

高齢者比率	34.3	若年者比率	12.8
-------	------	-------	------



「世界一素敵な過疎の町」を目指して ～「ちょっと暮らし」を活用したまちづくり～



2010年に新築されたA棟～D棟の4棟のちょっと暮らし住宅を活用し、厚沢部町への移住や二地域居住するためのお試し暮らしプランを提供している(写真はD棟)

事例の概要

- 厚沢部町では、平成21年3月に「厚沢部町素敵な過疎の町づくり基本条例」を制定し、町民をまちづくりの主体として位置づけ、同年9月に移住交流に特化した窓口となる第3セクター「素敵な過疎づくり株式会社」を設立した。行政だけでなく、地域が一丸となってまちの活性化に取り組んでいる。同社のウェブサイト「ちょっと暮らしナビ」にはスタッフのブログのほか、住民が動画を投稿できるようにしており、居住者目線で町の魅力をわかりやすく伝えるための工夫がなされている。
- 「ちょっと暮らし」を軸に移住交流に力を入れており、平成22年2月には移住体験住宅「ちょっと暮らし用住宅」を整備し、移住体験メニューを用意するなど、移住希望者のイメージとのギャップを取り除く取り組みがなされている。
また、関西の小学生を対象にした野外スクール「夏休み・あっさぶ町大冒険」や九州の女子大生をホームステイさせるなどの交流事業に取り組んでいる。



「夏休み・あっさぶ町大冒険」においては、関西の小中学生が地元小学生と自然体験学習を実施し、交流することで地域を活性化している。

評価のポイント

「厚沢部町素敵な過疎のまちづくり条例」に伴い設立された、「素敵な過疎づくり(株)」は町長を代表取締役とし、町をあげてUJIターン者も生まれ育った人も「住んで良かった」と思える、過疎を受け入れた魅力あるまちづくりを目指している。なお、スタッフ4名のうち町外・道外から3名を雇用している。

情報発信、ちょっと暮らし用住宅の管理運営、コンシェルジュ業務、移住モニターツアーといった「移住・ちょっと暮らし事業」では、取組の初年度から滞在人数が道内で3番目と実績をあげている。

交流事業では、関西の小学生や九州の女子大生などが来訪し、単なる観光ツアーではなくキャリア教育プログラムのような内容でおこなわれている。また住民との交流が豊富な内容になっており、町民参加型で推進されていることがうかがえる。

過疎を悲観するのではなく、ポジティブに捉えた新たな視点での同社の取組は先進的なモデルであるといえる。また、会社の責任の所在が明確であり、町民の協力体制が整えられていること、設立後わずか1年程度にもかかわらず、大きく実績をあげていることから、計画性や行動力、高い達成意欲がうかがえ、今後も高い成果を出し続けるであろうと期待できる。本事例においては、このような点が評価された。



「九州女子大学アウトキャンパススタディ」では、学生がホームステイをすることで、過疎地域の課題を発見し、発表・解決案を提起するといった取り組みを行っている。



メークイン発祥の地・厚沢部町は、農業を基幹産業として安全で良質な農産物づくりに取り組んでいます。



真夏の最大イベント「あっさぶ・ふるさと夏まつり」で、世界一の巨大コロッケを油で揚げる様子は圧巻です。

北海道 厚沢部町(あっさぶちょう)

【団体名】素敵な過疎づくり 株式会社

【所在地】〒043-1113 北海道檜山郡厚沢部町新町207番地

【連絡先】素敵な過疎づくり株式会社事業推進室 厚沢部町役場総務政策課政策振興係
TEL:0139-64-2022 TEL:0139-64-3311
ちょっと暮らしナビ <http://www.sutekinakaso.com>
厚沢部町ホームページ <http://www.town.assabu.lg.jp/>

【交通のご案内】

自動車 ●函館から国道227号線で約1時間 札幌から約4時間30分

鉄道 ●JR函館駅からバス90分 JR江差駅からバス15分

飛行機 ●函館から東京まで80分 大阪まで120分 函館空港からバスで110分



国勢調査人口(単位:人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
10,651	8,039	5,385	5,105	4,775

人口増減率(単位:%)

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-55.2	-40.6	-5.2	-6.5

高齢者・若年者比率(H17年)(単位:%)

高齢者比率	31.8	若年者比率	11.6
-------	------	-------	------



「恵まれた匹見の大自然の中で誰もが生涯現役で心豊かに暮らせる集落をめざして」



(株)萩の会の女性の皆さん。「生涯現役」「全員が主役」を合言葉に、「萩原出身者がいつでも帰って来られる集落」を目指した持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

事例の概要

- 平成10年3月に、匹見町萩原集落の住民が、誰もが生きがいの持てる暮らしがしたいとの住民全員の想いから「萩の会」は設立された。地域活性化のため様々な「部会」を設け、役割分担をしながら集落全員で活動を行っている。平成17年には法人化し、集落の住民全員が社員となり、コミュニティビジネスに取り組んでいる。
- 民宿部会「雪舟山荘」(現在は閉館)に続き、自然体験施設「萩の舎」を開設。郷土料理の提供に加えて、ブルーベリーの摘み取り体験や炭焼、川遊び、縄文体験など自然体験が楽しめる。そのほかにも、匹見町では縄文時代の遺跡が多数発掘されていることから、赤米などの古代食の栽培、「古代体験ツアー」を実施している水稻部会や、ブルーベリーの加工品を考案・製造しているベリー部会、炭焼き体験や炭の販売などを行っている製炭部会などがある。



匹見町は自然に囲まれた景色の綺麗なところ。豊かな森林資源を生かして、昔ながらののどかな山里の生活を営んでいます。

評価のポイント

高齢化が進み、農地の荒廃が進み始めた集落で、「匹見の恵まれた自然の中で都市住民との交流を大事にしながら、誰もが生涯現役で、心豊かに生活できる集落」であってほしいという住民全員の熱い思いから、「萩の会」は結成された。

集落内から灯りの消えた家を出すまいと、空き家を借り受け、平成10年4月に「わがままおばあちゃんの宿 雪舟山荘」を開設し、「民宿部会」が始まった。また、作り手のない水田で普通米のほか、赤米や黒米などの古代米を共同栽培し、民宿の古代食メニューに活用したほか、小学生を対象に「古代体験ツアー」を実施するなど、創意と工夫を生かした取組を行ってきた。これらの取組を通じて、空き家や遊休農地、耕作放棄地の解消に貢献し、農村環境の改善や景観づくりにつながった。

また、平成13年4月には、町からブルーベリー園を譲り受け「ベリー部会」を発足した。約450本の苗木から年間1.6t収穫し、ジャムやベリー餅といった様々な加工品を考案、製造している。平成19年5月には、もてなし・体験・特産品の館「萩の舎」をオープンし、匹見ならではの郷土料理のもてなしに加えて、ブルーベリーの摘み取り体験や、炭焼、川遊び、縄文体験など、自然体験が楽しめる拠点施設として活動をおこなっている。

(株)萩の会はこれらの様々な部会の活動を通じて、コミュニティビジネスの成功事例を重ね、地域リーダーの育成や高齢者、農村女性の社会促進など多くの実績をあげている。本事例においては、このような点が評価された。



作り手のいない集落内の水田で、赤米や黒米などの古代米を栽培。「古代体験ツアー」の実施や、民宿の食事に提供しました。



匹見町は縄文遺跡が多い場所であることから、地元の食材を使用した縄文料理をふるまっています。広葉樹や竹の食器に盛り付け、ハギやウメの枝を使った箸などにもこだわりながら提供しています。



約450本あるブルーベリー園畑で年間1.6トン収穫。ブルーベリーのジャムは、年間約5,000本を出荷。摘み取り体験も人気のメニューとなっています。

島根県 益田市(ますだし)

【団体名】株式会社 萩の会

【所在地】〒698-1211 島根県益田市匹見町匹見イ597-1

【連絡先】TEL:0856-56-1111

URL:<http://www6.ocn.ne.jp/~sesyu/>

【交通のご案内】

自動車 ●中国自動車道戸河内ICから国道191号経由 約50分

鉄道 ●JR益田駅からバス約70分

飛行機 ●萩・石見空港から益田駅経由バス約85分



国勢調査人口(単位:人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
70,018	58,278	56,596	54,621	52,368

人口増減率(単位:%)

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-25.2	-10.1	-3.5	-4.1

高齢者・若年者比率(H17年)(単位:%)

高齢者比率	28.3	若年者比率	13.1
-------	------	-------	------



先人の想いが伝わる 石垣の村『戸川』

～長い歴史の中で営まれた、人のぬくもりがここにある～



田植え前の4月、レンゲやベニバナツメクサが咲きほこる棚田を舞台に、『石垣の村 棚田まつり』を開催。地域に残る伝統芸能をはじめ、棚田コンサートなど多彩な催しを行っている。

事例の概要

- 当集落では平成3年に「石垣の村管理組合」を結成し、住民総出の「手間加勢」により、地域資源である「石垣」や「トロッコ道跡」の保存、伝承のみならず、町と連携して「棚田まつり」などのおもてなしイベント等の開催、森林セラピーツアー等の観光客の積極的な受け入れ、山村での交流を意識した「ウォーキング大会」等の体験メニュー等を提供するなど、自主自立を目指しながら、地域のイメージアップや活力向上に取り組み、集落特有の地域資源を守り育てていく諸活動を展開してきた。
- 地域資源を保全する活動が実を結び、「日本の棚田百選」や、トロッコ道跡を「遊歩道」として活用し「遊歩百選」にも認定されている。また、組合の働き掛けにより、町と企業とが「保養協定」を締結し、高所の石垣の除草等、住民だけでは困難な作業を手伝ってもらい、持続可能な集落づくりを図っている。



戸川地区は、宮崎県の最北山間部に位置し、祖母・傾山系を源流とする日之影川沿いの山あいにはっきりとたたずむ、戸数7戸の集落である。

評価のポイント

戸川地区は峡谷をえぐる五ヶ瀬川の支流である日之影川沿いの谷間にある7戸の集落である。「県北の七不思議」の一つとして戸川地区の石垣棚田が紹介されるなどしたこと、交流拠点施設「石垣茶屋」を整備、宿泊や食事などの受け入れ体制が整ったことで、集落全戸で「石垣の村管理組合」を結成した。

平成11年に「日本の棚田百選」に認定され、平成12年から田植え前の4月に「石垣の村棚田まつり」を開催するようになる。平成18年に日之影町が森林セラピー基地に認定され、かつてのトロッコ道を遊歩道に、また戸川地区に渡る吊り橋を整備し、棚田まつりに合わせて、この遊歩道を歩いて戸川に至る森林ウォークを開催、森林セラピーと戸川の棚田を組み合わせるさらなる活性化を図っている。また、町はセラピー基地として7企業と保養協定を結んでおり、これらの企業からのボランティアが石垣の除草に大きな役割を果たしている。

大正年間に完成した石垣は自然石を巧みに組み合わせたものであり、その美しさは貴重な文化遺産である。さらに、石積みの技術を受け継いでいる人がいることで今後も持続した取組が期待できる。町の森林セラピー基地としての動きに連携し、過疎山村の持つ自然と生活文化が響きあって、より大きな価値をつくり出している。こうした取組をわずか7戸の集落で組合を結成し、石垣と棚田を保全しつつ、外部の人にもてなしの心で接し行ってきた。本事例においては、このような点が評価された。



平成21年からは石垣の村管理組合などが主体となり、集落を紹介するガイド活動をスタートさせた。地域における新たな産業創出が期待されている。



高齢化率も40%を超え、多くの課題を抱えるようになったことから、町とタイアップし、住民との交流や集落の支援活動を応援する企業・大学・グループを募集し、支援協定の締結を進めている。



平成18年に全国で初めて「森林セラピー基地」に認定された。6つの散策コースを提供中で、特に、石垣の村トロッコ道コースは、家族や女性からの人気が高い。

宮崎県 日之影町(ひのかげちょう)

【団体名】 戸川地区石垣の村管理組合

【所在地】 〒882-0401 宮崎県西臼杵郡日之影町大字七折7282-1番地

【連絡先】 〒882-0402 宮崎県西臼杵郡日之影町大字岩井川3398-1番地
日之影町役場 地域振興課 TEL:0982-87-3910
URL : <http://www.hinokage.jp/>

【交通のご案内】

- 自動車 ●九州自動車道熊本ICから国道218号経由で2時間
- 鉄道 ●JR日豊本線延岡駅からバス50分
- 飛行機 ●宮崎空港から自動車3時間・熊本空港から自動車2時間



宮崎県
日之影町

国勢調査人口(単位:人)

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
15,711	10,261	5,928	5,445	5,031

人口増減率(単位:%)

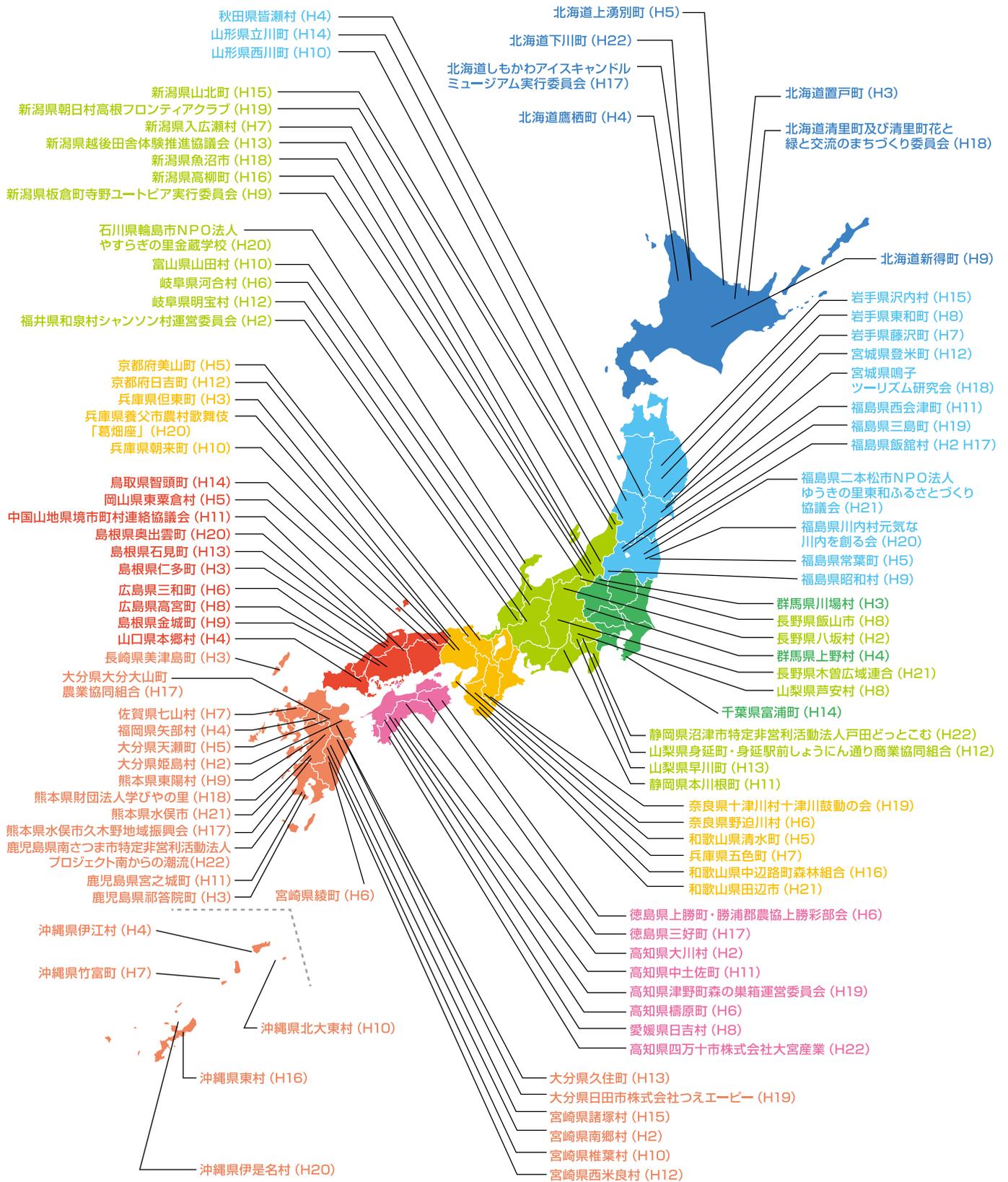
H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-68.0	-51.0	-8.1	-7.6

高齢者・若年者比率(H17年)(単位:%)

高齢者比率	38.0	若年者比率	8.6
-------	------	-------	-----

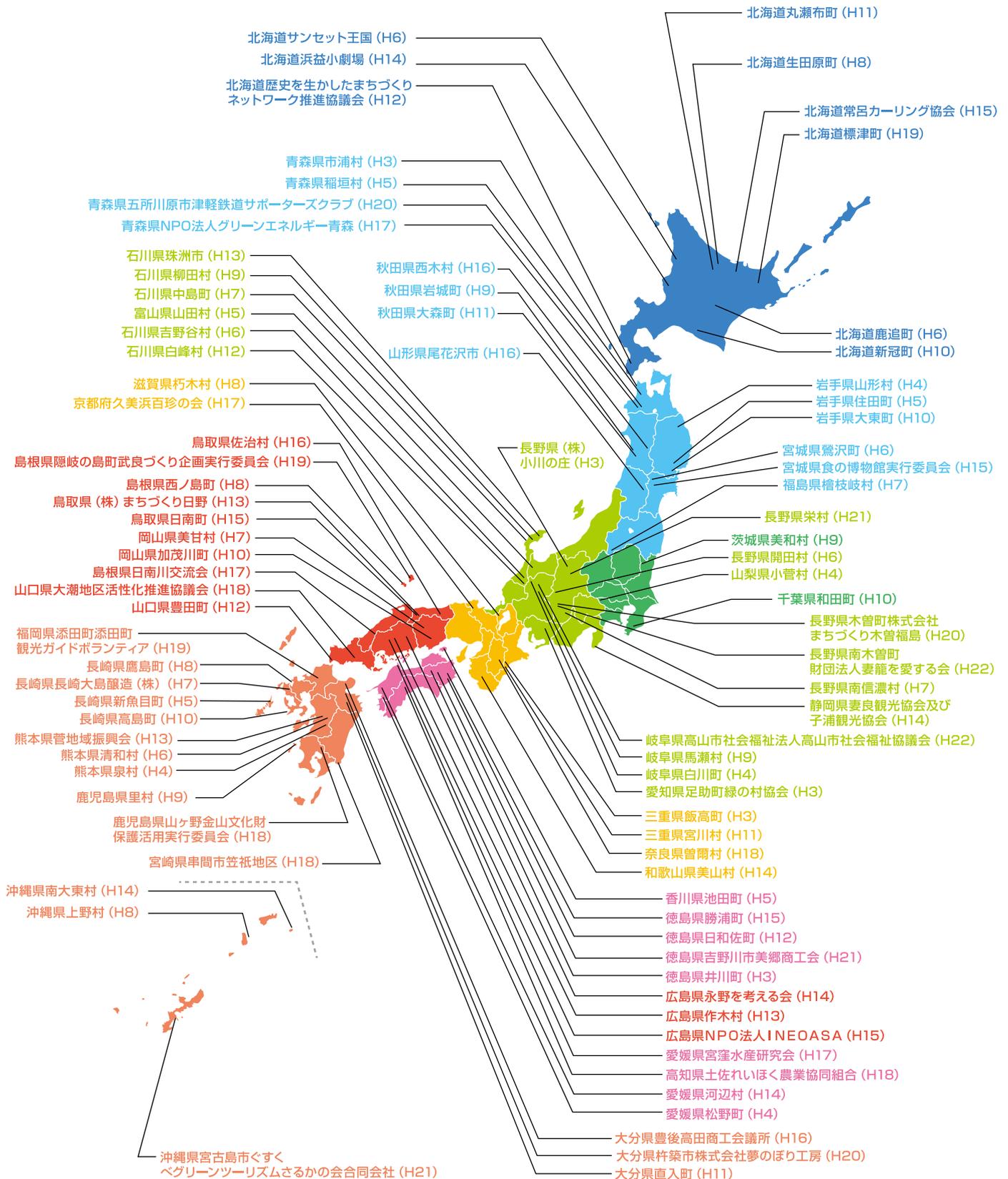
平成2~22年度過疎地域自立活性化優良事例表彰

総務大臣賞 (平成13年度より) 国土庁長官賞 (平成12年度まで) 受賞団体位置図



平成3～22年度過疎地域自立活性化優良事例表彰

全国過疎地域自立促進連盟会長賞 (平成12年度より) 全国過疎地域活性化連盟会長賞 (平成11年度まで) 受賞団体位置図





東日本大震災等における被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

総務省自治行政局過疎対策室

〒100-8926 東京都千代田区霞ヶ関2-1-2
TEL 03-5253-5536 FAX 03-5253-5537
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

全国過疎地域自立促進連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-13-5 第一天徳ビル3階
TEL 03-3580-3070 FAX 03-3580-3602
<http://www.kaso-net.or.jp/>